

## <出題意図（令和3年度一般入試前期日程：地域科学部小論文）>

### I 出題意図

問1. 筆者は、日本で生まれ育ち、日本で暮らす一方で、外国籍を有している。本文から、このような筆者の立場と国家観についての読解力を試す問いである。

問2. 筆者は、現在のオリンピックが、世界中の青年の友好を深める初期の理念から外れてしまい、国威発揚の舞台となってしまった結果、国を挙げてのメダル争いが熾烈になり、国民感情に火がつき、相手国へのヘイトスピーチにつながるために、オリンピックが苦手だと考えている。この点を踏まえて、本問の後半部分では、オリンピックに対する賛否の見解を、合理的な根拠をもって、説得的に述べることができているかを問う。考慮に入れることが想定される事項としては、たとえば、ナショナリズムについての立場、開発主義に対する是非、「復興五輪」という言説の当否などが考えられる。

### II 出題意図

問1. 労働と休日の「相補関係」にかんする読解力と想像力を問う。

問2. 休日とは本来、リラックスするものであるが、休暇にも市場や効率の原理が入り込み、生活様式が変化している様を考察する能力と、現代社会の変化をグローバルな規模から俯瞰する能力を問う。

問3. 働き過ぎ、という現象を企業社会の論理から説明するのではなく、その外側に位置する「退屈に耐えられない」という視点から説明する能力を問う。すなわち、常識的な考え方に囚われず、視点を変えて現象を捉え直す能力を問う。